

持続可能な地域づくりに向けた官民協働による環境学習推進プロジェクト

LEAF は 2014 年から 3 年間ソロモン諸島の首都ホニアラ市において、「New 3 R(リデュース、リユース、リサイクル+リターン)の理念を踏まえた官民協働による家庭ごみの分別収集システム構築プロジェクト」を実施しました。この事業後、ホニアラ市の持続可能な発展に、長期的な視点に立った市民意識向上に向けた教育施策が必要ではないかと考え、第 2 期事業(2017 年 6 月～2022 年 5 月)として『持続可能な地域づくりに向けた官民協働による環境学習推進プロジェクト』を提案し、採択されました。(りいふ、VOL. 54 に掲載)

■アウトプット

- ①環境学習活動の体系的な推進を通じた持続可能な地域づくり宣言の策定
- ②廃棄物・自然環境を学ぶ環境学習支援拠点施設の整備
- ③日本の経験伝達を通じた人材育成プログラムの実施
- ④教育カリキュラムと連動した各世代の子ども達を対象とした地域学習教材等の作成
- ⑤官民学協働による持続可能な地域づくりを推進するための非営利活動法人の設立

2018

2018 年度は、現地職員により、教科書情報の整理、生き物図鑑作成の為に情報収集、写真撮影(植物園、タナガイビーチ、バーズクリーク地区)、データ整理とともに、廃棄物学習センター建屋建設の準備から始まりました。

5 月、プロジェクトマネージャー小川理事が現地を訪れ、教育省カリキュラム局、植物園、SINU(ソロモン諸島国立大学)など関係機関との面談、協議を行い、事業連携がスムーズに進むよう調整しました。

6 月には、ラナディダンプサイトに「廃棄物学習サポートセンター」建屋建設が始まり、現地職員は建設契約や作業工程の確認などに奔走しました。

7 月 16 日～27 日 現地職員グレース・ヤコバの日本での研修が行われました。西宮市内の環境施設、甲山自然環境センター、甲山農地、甲子園浜自然環境センター、環境学習サポートセンター、西宮貝類館、北山緑化植物園の見学、甲山周辺での自然調査に参加したり、仁川での生きもの観察や環境学習サポートセンターでのイベント「メダカの学校」での活動も体験しました。



川の生きもの観察を手伝うグレース。(左)「この活動は私たちがホニアラ市で子ども達と一緒にしようとしている活動に似ており、大変参考になった。」

8 月 18 日～26 日、専門家派遣を行いました。現地職員とともに植物園の川で貝類及び水生生物などの調査をしました。小魚、エビ、カニが見つかりましたが、種名の特定については、現地の専門家が少なく、全国的な共通名称が確定されていない可能性が高く、今後の課題となっています。



生物調査する森 翠氏、現地職員テスニー。



10 月 6 日から 14 日にかけて、昆虫の専門家として神戸女学院大学の遠藤教授、水質調査の専門家として山本環境整備(株)の熊谷氏にホニアラ市を訪問していただき、以下の取り組みを行いました。

10 月 10 日、ラナディダンプサイトに設置した廃棄物管理に向けた環境学習センターのホニアラ市への引き渡し式を、ホニアラ市副市長、議会関係者、JICA、ソロモン諸島環境省など約 40 名が参加しました。



環境学習センター～廃棄物管理～：圧縮したペットボトルの保管に加え、廃棄物について学べる展示パネルなどを設置する

10 月 11 日、教育省からの推薦を受けた中学校教員、ソロモン諸島国立大学学生、植物園職員などの約 20 名を対象に植物園で環境指標としての生物調査や昆虫の標本づくり、水質調査法などについての実地研修を行いました。

10 月 12 日、ホニアラ市がこれまで当協会が呼びかけて開催していた官民協働会議を発展させ、公的なパートナーシップ会議として初めての会議を招集し、環境学習プランの策定や持続可能なまちづくりを進めるための都市宣言について議論がなされました。詳細は次号で紹介いたします。